

## PVC 第 5 回講演 高野 雅彰氏(2021 年 7 月 29 日)

### 「自分×価値 ～自分の価値は自分で創る～」

大学生への危機感

今回のゲストは神戸大学の OB で、  
株式会社 DG TAKANO 代表取締役の高野 雅彰さん。

東大阪の町工場の息子として育った高野さんは、高い技術を提供しても対価が少ない事業に歯がゆさを感じ、

「事業を引き継ぐのではなく、技術を受け継ぐ」というモットーに

高精度ながらも 300 円しか儲からなかったガスコンロの火力を調整する部品の技術はそのままに

bubble90 という 9 割の節水率かつ高い洗浄力を実現するノズルを開発した。

今の時代に合わせて何を作るべきかデザインをすることで付加価値を 100 倍に。

かつて高野さん 1 人で始まった DG TAKANO は設立からわずか数年で世界中から優秀な人材が集まる企業にまで成長している。

世界中の企業が注目するインド工科大学の採用活動で、なんと日本のベンチャー企業で初めて優秀な学生に早期段階でコンタクトできる採用 1 巡目を獲得。

リアルタイムでマイクロソフトや GAF A と学生の採用争いをしていたのだとか。

そして今や、働きたいベンチャー企業第 1 位。その応募倍率は 300 倍を超え、ラブコールが止まらない。

そんな魅力的な組織を創り上げ、第一線でヒトを見ている高野さんは今の社会に生きる私たちに大きな課題を感じているという。

「いま日本は物質的に豊かで安心で安全で便利。しかし、ほとんどの人の夢が叶っていない。多くの人が夢を諦め妥協してしまっている。」

「今までは、物質的な豊かさを必死に追っていた。しかしこれからは一人一人の幸せに焦点が当たる時代。そのときにどういう生き方をするか。」

「今からからは自由度が高くなってどんな人生でも生きることができる。でもそうなったときに幸せになる人が増えるかといったらそんなことない。」

高野さんは言い切る。

彼は実は、就職活動を行っていた大学生のころからこのように感じていたのだという。

「当時、周りの友人はみんな有名な企業に就職したがっていたが、僕にはみんな同じに見えた。どこも働きたくないと感じた。」

「なぜかっていうと、自分で自分の人生をコントロールできなくなる。」  
自分の人生をコントロール。強烈なワードが来た。

「例えば、テレビを作りたいと思ってメーカーに行っても、“冷蔵庫”と言われると冷蔵庫を作るしかない。東京で働きたいと思っても“お前は大阪”と言われると大阪に行かされる。」

たしかに、おっしゃる通りだ。筆者の父は大企業に勤めており、関西圏での勤務を希望しているのだが、関東や東海と様々な場所に辞令が命じられ、父が単身で赴任することもしばしば。

しかし、私含め家族は「仕事だからしょうがないよね。」とあたかも当然のことだと思っていた。

今考えると、それを当たり前だと思っていること自体、恐ろしく感じる。

自分の人生自分で舵を切る、企業に入ったらこれが実現出来ないのが普通、それもお縁。いつの間にか何の疑いもなくそう感じていた。

でも、会社が出したその辞令によって、私は中学生になってから父と暮らせていない。家には父がいないのが普通。父は1か月に数日帰ってくる“たまに会う”存在。

それって普通なのだろうか。

身近なところに疑問を感じた。

「僕の体感として日本人の8割9割が仕事に対してやる気がない。これって個人の問題じゃない。社会か、もしくは組織の問題。やる気がなくなるような社会や組織の仕組みになっている。」

彼は大企業に勤める人の多くが、その風通しの悪さに慣れてしまい、行動を起こさない負の循環が起きてしまっていることを指摘する。

「例えば、頑張っても給料がなかなか上がらないとかね。おかしいと思う声も通らず、働くやる気がどんどん失われて行ってしまう。そのうち疑問の声を上げることすら辞めてしまう。それでみんなが同じになってしまう。組織がダメだってわかっているけども自助能力がない。この連鎖が起こっている。」

変化の波が立たない場所では、イノベーションが起こらない。

「だから、僕はそのような大企業に魅力を感じなかった。」

高野さんは言う。

「本来学生っていうのは人生の下積み期間で、社会に出てからようやく人生を自由に生きられるようになる。」

自由になれる「はず」だ。

「今まで親の保護下にあった自分たちが大学生になった瞬間にいきなり“はい、自由になりました!!”とレールを外される。どんなことを考えて人生を生きないといけないとか一切学ばずに放り出されるわけ。でもアドバイスをもらう先輩も同じように放り出されていて、連鎖が起こっている。そして働き出して“人生こんなもんなんだな”と現実を自覚する。」

いつの間にか、だれの人生なのか、何のために生きているのかを立ち返ることもなくなってしまう。もっとやりたい!という欲が消えていく。

「でも本来仕事は自分のやりたいことが出来て、一回きりの人生の自己実現が出来て、お金までもらえる幸せなものはず。」

高野さんによると、社会人に必要な力は「理解力・判断力・分析力・想像力・行動力」の5つ。

しかし、残念なことに私たちも、先を進む先輩たちも教えられたことを理解する「理解力」しかトレーニングしてきていないそうだ。

ぜひ残りの4つの力を鍛えて、人生を自分で歩んでほしい。

人生をもっと面白くしよう。 そんなメッセージを込めて、普段高野さんが DG TAKANO で社員向けに行っている「判断力・分析力・想像力・行動力」を鍛え、イノベーションを起こす力をつけていくワークを特別に体験させてもらった。

### 【ワーク】

ワークは1つの問いから始まった。

「卒業後どんな計画をしているのか。」

マスターに進む、海外で働く、企業に勤める…様々な答えが出たが、なかなか答えが思い浮かばない参加者も。

まだ、うまく想像できない私たちに向け、

「たしかに、働いていないから分からへん。想像が難しい。でも、その中で自分の人生を決めていかなければならない。ただ、いくらでも修正が効く。1回きりと思っているのは自分で決めつけているだけ。」

「逆に言うと想像力さえあればどんなルートでも無限に選択肢を広げられる。」

「でも、みんなは想像するトレーニングをしてきていないから目の前にある選択肢しか選ぶことが出来ていない。」

私たちは気づかぬうちにたくさんのリミッターを設けて自分の可能性をどんどん狭めてしまっているのだという。まずは、そのリミッターを外す訓練だ。

さて次の質問が投げかけられた。

「人生の目的は？」

卒業後よりもさらに広い範囲の問いに参加者みんなで頭を悩ませる。ここで、高野さんから、リミッターを外しやすくなる素敵な発想が。

「まず、全ての事象に意味はない。イコール人生に意味はない。これはどういうことか。」

「人間は自分視点で見ているが豊かになるには自分以外の視点をどれだけ持って物を見れるようになるかが重要だ。」

「それは人だけでない。宇宙から人を見たとき、僕が大成功しようが、ホームレスになろうが何の意味がない。独身だろうが結婚しようが宇宙の時間軸では関係ない。」

「幸せだと感じるかどうかは全て勝手な価値観で解釈して意味付けしているだけ。」

「大企業が上でベンチャーが下とか。ホワイトカラーが上でブルーカラーが下だとか。幸せとを感じるのはどのステージでもできる。優越感や劣等感は自分が勝手に比較しているだけ。どこと比較したらいいかだけ。」

「そう考えるとすべて無駄な努力、無駄な努力というより意味もない。何もない。」

「でも、与えられた1度きりの人生ですよ。」

そしたら、どんな選択をしたっていいやん！

「ここまで理解できると初めて完全な自由が手に入る。すると、リミッターや無意識なバイアスがなくなる。」

つまり、何をやって宇宙の規模や時間軸から見ると意味はない。

→ならば幸せだと感じて死んだ方が良い。

でもこのように考えるとまた新たな問いが生まれる。

では、幸せな人生を生きるには？

そもそも幸せって何？

私たちが幸せな人生を実現するには「幸せ」の定義を明らかにする必要がありそうだ。

高野さんは以下の欲求のピラミッドを用いながら説明してくれた。

「日本ではほとんどが下から3つまでは満たされている。今直面しているのが承認欲求。」

「この欲求を満たすために人に嫌われないようにと人目を気にして生きている。でも、これは近視眼的で意味のないこと。どうせ意味のない人生をやっているんだったらそれってすごく価値として低いと思う。」

何をやって宇宙の規模や時間軸から見ると意味はない。  
だから、どんな選択をしたって大丈夫。だったら幸せだと感じて死んだ方が良い。

「ここを理解できていたら、人目なんかどうでもいい。自分がやりたいことをするんだよと。この考え方で欠乏欲求が成長欲求へとなり、自己実現が可能となる。」

つまり、宇宙からの視点を理解すれば、承認欲求の壁を超え、自己実現欲求の実現へとコマを進めることが出来る。

「DG TAKANO が目指しているのはこの自己実現の欲求を満たしたいと思っている人たちの集まり。」

ではここで改めて想像力を鍛える質問だ。

「どんな人生でも自由に生きられるとしたら、何の障害もなければ、どんな人生を生きたいですか。」

参加者の解答には徐々にユーモアと個性が出てくる。

古代ギリシャのように暇を持て余しながら同じ立場の人と議論をしたい

タイムスリップともしもボックスが欲しい

東南アジアで日本語教育をしてみたい

お金に不自由なく過ごしたい、でも人にも頼られたい などなど。

では、自分以外での視点からの意見を聞けたうえでもっとリミッターを外すことを軸に置き、次のワーク。

「理想の人生をA・B・Cルートの3つ考えてください」

「今までの延長でしか生きていけないと思っている人だらけ。だが、明日は過去の延長にとらわれず生きていける。」

「自分にはこれしか、この範囲しかないと思っていたことが人生1回きり、では何を？と常に考えさせることで想像力と分析力がつく。すると範囲が狭かったのが膨らんで人生の選択肢がすごく増える。」

大事なのは答えを1つにしないこと。やりたいことをたくさん挙げることで、想像することが身近になる。自分の興味や好きなことをより分析するようになる。そして、この作業を繰り返すことで今まで選択肢から外していた自分の可能性が見えてくる。

もっと面白い人生が、自分にしか実現できない生き方が近づいてくる。

この問いに対して、参加者からは以下のような回答が。

「1：スポーツ万能になる 2：ハーフになる 3：どれだけ甘いものを食べても太らない体になりたい」

「1：ギリシャのような場所で同じ立場の人と哲学について語りたい 2：何もしないニートの生活をやってみたい」

「1：大人気ハリウッド女優になる 2：世界中を旅したい 3：海賊になりたい」

では次、その理想のルートの障害は何ですか？

高野さんから3つのルートを深ぼる質問が。

ポイントは物理的に難しいことは抽象度を上げて考えること。

例えば、古代ギリシャに行って哲学について語りたい、であれば古代ギリシャの何に魅力があるか、ではそれを今の社会で実現するにはどんな障壁があるかと考える。

「このトレーニングはどのようなトレーニングかという、まずリミッターを外せない人はすぐに現実を見てしまってそんなのできるわけないと無意識に考えてしまい、できる範囲の中でしか想像できない。」

「なのでまずは全ての制限を取っ払う。全ての制限を取っ払って何の制限もなかったら自分はという風に生きたいかを想像する。そして出てきてから障害を考える。そうすることでできるわけない、と思っていたことが、どうすればできるようになるか考えるようになる。」

「だから、今は解決策を考えなくていい。それを実現する為の障害は何か、ということだ。」

そもそも時代が違う、

「いま皆さんが挙げた障壁、これが課題。では、この課題が解決できればあなたと同じように幸せな人生を生きられる人がいると思うか。」

「もし、答えがYesであるならば、それこそがあなたが理想の人生を手に入れかつ、事業にできる可能性がある、これが今の社会課題の可能性がある。」

「これを見つけ出すことが出来れば、自分のモチベーションや行動力は無限にある。理想の人生を手に入れるために前に走っているんだから。」

「このようにして新規事業を創っていく。こうすることで皆さんしか思いつくことが出来なかったけど、言われてみればそうだよ！ということを実践にできる。この想像力の千本ノックをしている。」

「最後に、イノベーションの起こし方ということで、皆さんは常識外の結果を起こさなければならない。となれば行動と結果は相関しているから常識外の行動もしていかなければならない。これで行動のリミッターが外れる。となると次は常識外の戦略が必要になる。そんな戦略を立てるには常識のリミッターを外さなければならない。」

「戦略を見出すまでに、課題の本質を見抜くこと、行動を定めるまでに常識にとらわれないう解決策を導き出すこと、行動の際に実現すること」の過程が隠れている。この3つのタイミングでイノベーションは起きる。3つ同時に起こすことが出来ると驚異的な力が出る。で実際にこれらを達成するにはそれぞれ「分析力・想像力、分析力・想像力、行動力」が必要になる。でみなさんは理解することしか学習していない。」

「夢をかなえる回数が増えれば、幸せだと感じる時間が多いので幸せな人生となる。だから、効率的に夢をかなえられるのが理想的。そこには夢をかなえたいと思う人たちを連携させる組織の覚醒と、個々の覚醒の外部的内部的要因が必要です。」

最後に高野さんは DG TAKANO のビジョンを語り、場を締めくくった。

「DG TAKANO では夢をかなえたいと思っている成長ポテンシャルの高い人を集め、彼らを覚醒させ、さらに互いに協力し合う文化を作ることによって効率的に夢をかなえる。」

「今日取り組んだ Brain Camp や共に夢を協力して叶え合っていく Designers Guild の活動を通してこれらを実現させると共に、DG の文化を創っていく。」

**【筆者の感想】**

筆者の私はちょうど就職活動を行っており、なるべく早いうちにやりたいことを見つけ出したい、でもなかなかこれだ！と思うものが見つからない…という繰り返しでとても焦っていた。

でも、この講演中に V School の代表を務められている國部先生からのひとこと、そして高野さんの人生への考え方にとっても救われた。

「意味のない所に意味がある」「意味があると思うから出てこない」 by 國部先生

## 社会人に必要な力

- ・理解力→教えられたことを理解するここしかトレーニングしてきていない
- ・判断力
- ・分析力
- ・想像力
- ・行動力

→今から社会に放り出されたとき、何もできない

「周りの友人はみんな有名な企業に就職したがるのだが、僕にはみんな同じに見えた。どこも働きたくないと感じた。」

「なぜかっていうと、自分で自分の人生をコントロールできなくなる。」

「例えば、テレビを作りたいと思ってメーカーに行っても、“冷蔵庫”といわれると冷蔵庫を作るしかない。東京で働きたいと思っても“お前は大阪”といわれると大阪に行かされる。」

「自分の人生を全然知らない他人にコントロールされる、そんなありえへんやろ。」

「頑張っても給料がなかなか上がらないとかね。働くやる気が失われる仕組みしかない。」

「僕の体感として日本人の8割9割が仕事に対してやる気がない。そうなってくるとこれって個人の問題じゃないよね。社会か、もしくは組織の問題だよね。やる気がなくなるような社会や組織の仕組みになっている。」

「本来学生っていうのは人生の下積み期間で、社会に出てからようやく人生を自由に生きられるようになる。」

「今まで親の保護下にあった自分たちが大学生になった習慣にいきなり“はい、自由になりました!!”とレールを外される。みんながどんなことを考えて人生を生きないといけないかとか一切学ばずに放り出されるわけ。でもアドバイスをもらおう先輩も同じように放り出されていて、連鎖が起こっている。そして働き出して“人生こんなもんなんだな”と現実を自覚する。」

「おかしいと思う声も一切通らず、そのうち疑問の声を上げることすら辞めてしまう。それでみんなが同じ内容になってしまう。組織がダメだってわかっているけど自助能力がない。この連鎖が起こっている。」

「みんな頑張っているふりをしている。もしくは言われた最低限の事しかしない。」

「でも本来は自分のやりたいことが出来て一回きりの人生の自己実現が出来てお金までもらえる幸せなものはず。」

「しかし、日本の伝統的な大企業ではそのように組織をかえることができなくなってしまっている。写真になる人もサラリーマン。そんな彼らは、自分が社長の時に何も問題が起こらないようにと無難に過ごす。それではイノベーションが起こるわけがない。」

「だから、僕はそのような大企業に魅力を感じなかった。」

「いま日本は物質的に豊かで安心で安全で便利。しかし、ほとんどの人の夢がかなっていない。多くの人が夢をあきらめ妥協してしまっている。」

「今までは、物質的な豊かさを必死に追っていた。しかしこれからは一人一人の幸せに焦点が当たる時代。そのときにどういう生き方をするか。」

「今からからは自由度難くなってどんな人生でも生きれる。でもそうなったときに幸せになる人が増えるかといったらそんなことない。」

「自由は常に責任とセット。どんな環境であっても自分が幸せ生きていける力を手に入れないといきなり畏友を与えられたらみんな墮落して結局幸せでない道へ進んでしまう。」

「もともと東大阪でやっている町工場の部須戸として育ちました。」

「すごく制度のいるガスコンロの火力を調整する部品を作っていた。」

「しかし、エンドユーザーに向かう頃には1万円を超える製品にもかかわらず、製造元は300円しかもうかっていない。」

こんな状態の家業はつぎたくない。

「事業を受け継ぐんじゃなくて技術を受け継ぐ。」

だから、新しくベンチャーを立ち上げバブル90という節水をするノズルを開発しました。ここに技術革新は起こってない。受け継いだだけ何を創ったらいいか今の時代に合わせてデザインをする。そのことで付加価値を100倍にした。」

このノズルによって平均8.9割の節水を可能にし、洗浄力

底から数年で世界から優秀な人材が集まる企業にまで成長。世界中の企業が注目する員夫工科大学の採用活動で、日本のベンチャー企業で初の採用1巡目を獲得。マイクロソフトやGAF Aと学生の採用争いをしていただけだとか。

そして今や、働きたいベンチャー企業第1位。応募倍率は300倍を超えます。

高野さんが人材育成に力を入れたきっかけ

・ヨーロッパの品評会で好評→自信をつけて日本に帰る→モノづくり大賞でグランプリ→5年位売れない→やっと売れるようになり、人を雇える状態に→募集がゼロ→1年半後に働きたいベンチャー第1位、倍率300倍もの企業に→夢をかなえあう会社、一緒に夢をかなえる企業へ→マネジメントをしない→窃盗や横領が多発→これを止めたのが外国人人材→もともと言葉が通じない国に来る時点で夢を持っているDGはロシア人が救った

品質や不具合を直したのはインド工科大学の学生だった→外国人が入る→意識が高い人が入り夢見た状態に。ここまで10年

夢をかなえたい人が協力し合って互いの夢をかなえる

- ① 企業や相手の夢をかなえる→事業を成功にもっていく
- ② 貢献に合わせて利益を出資
- ③ プロジェクトを開始
- ④ その売り上げの利益を分配→協力した仲間がプロジェクト（やりたいこと）を行う

ワーク

社会人に必要な力

・理解力→教えられたことを理解するここしかトレーニングしてきていない

・判断力

・分析力

・想像力

・行動力

→今から社会に放り出されたとき、何もできない

Q 卒業後どんな計画をしているのか

→働いていないからわからへん。想像が難しい。でもその中で自分の人生を決めていかなければならない。ただ、いくらでも修正が効く。1回きりと思っているのは自分で決めつけているだけ。

逆に言うと想像力さえあればどんなルートでも無限に選択肢を広げられる

でもみんなは創造するトレーニングをしてきていないから目の前にいる選択肢しか選ぶことが出来ない

→無意識に設けてしまっているフィルターを外そう

人生の目的は？

「まず、全ての事象に意味はない。＝人生に意味はない。これはどういうことか。人間は自分視点で見ているが豊かになるにはい文以外の視点をどれだけ持って物を見れるようになるかが重要です。」

「それは人だけでない。宇宙から人を見たとき、僕が大成功しようが、ホームレスになろうが何の意味がない。独身だろうが結婚しようが宇宙の時間軸では関係ない。」

「幸せだと感じるかどうかは全て勝手な価値観で解釈して意味づけしているだけ。」

大企業が上でベンチャーが下とか。ホワイトカラーが上でブルーカラーが下だとか。

幸せとを感じるのはどのステージでもできる

優越感や劣等感は自分が勝手に比較しているだけ。どこと比較したらいいかだけ。

そう考えるとすべて無駄な努力？無駄な努力という意味もない。何もない。

でも与えられた1度きりの人生ですよ。

ここまで理解できると初めて完全な自由が手に入る。するとリミッターや無意識なバイアスがなくなる。

→どうせ意味はない。ならば幸せだと感じて死んだ方が良い。じゃあ幸せな人生を生きるには？→そもそも幸せって何？

・幸せの種類

欲求のピラミッドの話

日本ではほとんどが下から3つまでは満たされている。今直面しているのが承認欲求。

この欲求を満たすために人に嫌われないようにと人目を気にして生きている。でもこれは近視眼的で意味のないこと。どうせ意味のないことを人生をやっているんだったらそれってすごく価値として低くない

ここを理解できていたら、人目なんかどうでもいい。自分がやりたいことをするんだよと。この考え方で欠乏欲求が成長欲求へとなり、自己実現が可能となる。DG

TAKANOが目指しているのはこの自己実現の欲求を満たしたいと思っている人たちの集まりです。

ではここで改めて質問します。

「どんな人生でも自由に生きられるとしたら 何の障害もなければ、どんな人生を生きたいですか。」（想像力のトレーニング）

「世界中を旅したい」「タイムスリップともしもボックスが欲しい」

「お金に不自由なく過ごしたい、でも人にも頼られたい」

「東南アジアで日本語教育をしてみたい」「古代ギリシャのように暇を持って余しながら同じ立場の人と議論をしたい」

など参加者からは様々な声が

自分以外での視点からの意見を聞けたうえでもっとリミッターを外すことを軸に置き、次のワーク。

「理想の人生を A・B・C ルートの 3 つ考えてください」

このワークは DG TAKANO でも社員の方が取り組み続けているワークとのこと。

今までの延長でしか生きていけないと思っている人だらけ→明日は過去の延長にとらわれず生きていける→自分にはこれしかないこの範囲しかない。。。→そんなことない人生 1 回きりやでと常に考えさせる→想像力と分析力がつく→範囲が狭かったのが膨らんで人生の選択肢がすごく増える

「1：スポーツ万能になる 2：ハーフになる 3：どれだけ甘いものを食べても太らない」  
「1：ギリシャ 2：何もしないニートの生活をやってみたい」  
「1：大人気ハリウッド女優になる 2：世界中を旅したい 3：海賊になりたい」

では次、その理想のルートの障害は何ですか？

ポイントは物理的に難しいことは抽象度を上げて考えること。

例えば、古代ギリシャに行って哲学について語りたい、であれば古代ギリシャの何に魅力があるか→今の社会で実現するにはどんな障壁があるか と考える。

「意味のない所に意味がある」「意味があると思うから出てこない」by 國部先生

「このトレーニングはどのようなトレーニングかという、まずリミッターを外せないひとはすぐに現実を見てしまってそんなんでできるわけないと無意識に考えてしまってできる範囲の中でしか想像できない。なのでまずは全ての制限を取っ払う。すべての制限を取っ払って何の制限もなかったら自分はどのような風に生きたいかを想像する。そして出てきてから障害を考える。そうすることでできるわけない、と思っていたことが、どうすればできるようになるか考えるようになる。」

だから、今は解決策は考えなくていい。それを実現する為の障害は何ですか、ということです。

・欲求を深く掘り下げる

「いま皆さんが挙げた障壁、これが課題です。では、この課題が解決できればあなたと同じように幸せな人生を生きられる人がいると思いますか。」

「もし、答えが Yes であるならば、それこそがあなたが理想の人生を手に入れかつ、事業にできる可能性がある、これが今の社会課題の可能性がある。」

「これを見つけ出すことが出来れば、自分のモチベーションや行動力は無限にある。理想の人生を手に入れるために前に走っているんだから。」

「このようにして新規事業を創っていく。こうすることで皆さんしか思いつくことが出来なかったけど、言われてみればそうだよ！ということを実践にできる。この想像力の千本ノックをしている。」

「最後に、イノベーションの起こし方ということで、皆さんは常識外の結果を起こさなければならぬ。となれば行動と結果は相関しているから常識外の行動もしていかなければならぬ。これで行動のリミッターが外れる。となると次は常識外の戦略が必要になる。そんな戦略を立てるには常識のリミッターを外さなければならぬ。」

「戦略を見出すまでに、課題の本質を見抜くこと、行動を定めるまでに常識にとらわれぬ解決策を導き出すこと、行動の際に実現すること」の過程が隠れている。この3つのタイミングでイノベーションは起きる。3つ同時に起こすことが出来ると驚異的な力が出る。で実際にこれらを達成するにはそれぞれ「分析力・想像力、分析力・想像力、行動力」が必要になる。でみなさんは理解することしか学習していない。」

「夢をかなえる回数が増えれば、幸せだと感じる時間が多いので幸せな人生となる。だから、効率的に夢をかなえられるのが理想的。そこには夢をかなえたいと思う人たちを連携させる組織の覚醒と、個々の覚醒の外的・内部的要因が必要です。」

「DG TAKANO では夢をかなえたいと思っている成長ポテンシャルの高い人を集め、彼らを覚醒させ、さらに互いに協力し合う文化を作ることで効率的に夢をかなえる。」

「今日取り組んだ Brain Camp やともに夢を協力してかなえあっていく Designers Guild の活動を通してこれらを実現させると共に、DG の文化を創っていく。」